

繊維ニュース

<http://www.sen-i-news.co.jp>

繊維ニュース

検索

2016年

6月24日(金)

発行所 ダイセン株式会社

大阪本社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-9 輸出繊維会館8階

電話 (06) 6201-5012 Fax: (06) 6226-0106

E-mail: webmaster@sen-i-news.co.jp

東京本社 〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町3 新堀ビル5階

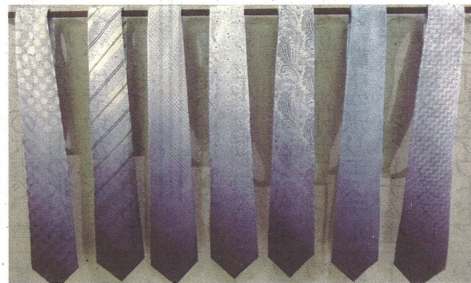
電話 (03) 5289-7003 Fax: (03) 5289-7233

中部支局・中国支局・北陸支局・上海支局・蘇州商務諮詢(上海)有限公司

購読のお申し込み 06-6201-5012(代) hanbai@sen-i-news.co.jp

ネクタイ16秋冬企画

今年で12年目を迎えたクールビズ(CB)。政府は昨年まで5〜10月をCB期間としていたが、今年は5〜9月と1ヵ月前倒しでのCB期間終了を発表した。ネクタイ業界にとって秋冬はメインシーズンであり、こうした状況も追い風にしたいところ。売場が振るわないなか、16秋冬では引き続き独自路線の企画で、鮮度の高い商品提案がキーワードになる。とくに差別化の一手として、服地向けでよく見られる織りや加工を駆使したネクタイが存在感を示している。



引き染を使って差別化を図る(三松商事)

れなかった傾向が出てきた。服地向け素材で一般に見られる技法を用いた企画が増えている。アラ商事が打ち出したのはカッチャードのフオーマル向けネクタイ。同技法は主に桐生や米沢産地の婦人服地で見られる織り技法で、ネ

デニムも近年の素材トレンドの一つで、マルゴではインディゴ調のネクタイを披露。ジーンズ独特の色落ち感をスランジ調に仕上げた。

現在、首都圏を中心に多くのネクタイ企業が加盟する東京ネクタイ協同組合が発表した「日本のネクタイ生産実態調査」(2014年発行)によると、ネクタイの輸入・生産総本数は国内外合わせて約2500万本。そのうち輸入が約2000万本で、国産は500万本にとどまる。

「ネクタイの売れ筋で、を基調に同社オリジナル5割がネイビーをはじめ糸を使つて高級感あふれとしたブルー系ネクタイの質感を追求し、一般的に」といった声があるようなブルーネクタイとは一ツではけを引いて染め

「JAPAN QUA LITY」を切り口にしたのは百貨店をメインとする三松商事。染め技法のイを披露。二重織り素材一つではけを引いて染め

昨年では暖冬の影響でマフラーといった首回りが苦戦したものの、ネクタイは予想以上に伸びた。今年はCB期間の短縮が16秋冬商戦にどう作用するか注目される。

服地の技法で存在感

独自路線は強まる一方

としたネクタイが売れると言われている。ただ、

ンでは濃淡織り交ぜた糸を経糸に配し、緯糸にはブラウンやバイオレットカラーといった秋冬らしい色を加味したスランジネクタイを打ち出す。

顧客をつかもうとする動きを強めている。

同じく百貨店を中心に展開するアラ商事でも、経に色糸を配することで表面の柄とともに光の加減で全体が光沢がかった独自性を発揮した物を登場させた。

百貨店を主販路とする永島服飾では、16春夏に立ち上げた「アスロー」ブランドを積極的に推す。同ブランドはブルー

展開するアラ商事でも、経に色糸を配することで表面の柄とともに光の加減で全体が光沢がかった独自性を発揮した物を登場させた。

そのなかで16秋冬に向目度が高まっている。

ムラ糸・スラブのオーガニック糸

エコオーガニック

ナチュラルムラ糸
(エコマーク取得糸)